



秩父の強固な岩盤上に建てられた
「セキュリティセンター」

対策として誘致に熱心で、地元の方々も非常に友好的だった点も決め手となりました。しかし結果として非常に幸運だったのが、この地の人々が極めて有能でかつ「安全性が担保されている」という点です。現在数十名の女子職員が働いています。が、全員厳しい試験をパスした地元の方々です。しかし仮に他の地域に進出していたとしたら、果たしてこれだけ優秀な人材を多数確保出来たか甚だ疑問に思うほどです。

——それは一体どういうことか。

齋藤 セキュリティ業務で昨今急速に求めはじめられていることは、「信頼できる企業なのは当然だが、実際に携わる人間は安心なのか」という点です。そしてここが実はわれわれにとっての大きなセールスポイントにもなっています。秩父は腹背に山を戴く狭隘な町なので、歴史的に外部との交流はそれほど活発ではなく、ある意味住民は皆「顔見知り」といっていいほどです。新規採用でも「紹介」が専らですから、昔ながらの「地

縁・血縁」による身元保証が完璧なのです。つまり地域コミュニティによる「安心」が担保されているわけで、これほど確かな保証はないでしょう。実はこれなど、進出して初めて分かった「幸運」で、今後のセキュリティビジネスでは、この「人的要素」がむしろ最重要になってくるのではないのでしょうか。また秩父は最大の市場・東京に至近ですから、クライアント側としては「大事な書類が近くにある」ということで心情的にも安心ですし、おまけにこの地は「秩父中古生層帯」という非常に頑丈な地盤の上にあります。中央防災会議によれば、仮に南関東で想定される巨大な直下型地震が発生したとしても、震度4以下とのことで、同センターが倒壊の憂き目にあう可能性も非常に少なく、セキュリティを考えればこの地を置いて他には考えられません。

——今後の展望は。

齋藤 先にも述べましたが、この業界では、単なるデータの保管事業で

は生き残れません。ですからわれわれは付加価値を求めたBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）企業としての脱皮を目指します。より端的にいうならば、「同業者が嫌がるような仕事」をむしろチャンスととらえ、ユーザーが困っていることを解決するようなビジネスを貪欲に追い求めます。例えば、ドキュメント1枚ごとに2次元バーコードを付加して管理するといった業務は、同業者ならば面倒くさがって敬遠しがちです。しかしわれわれは喜んで引き受けます。従来型の大量保管ではなく「少量でも価値を生み出す保管」に徹していくのです。

「省エネ」をキーワードとした 新機軸

——最後に、新機軸の1つとして先日ASPを駆使した「省エネソリューションサービス」をリリースしたようだが、その狙いは。

齋藤 昨年省エネ法が改正され、ある一定の規模を持つ中小の全事業者